

## 研修報告書 No.8

所 属： 東京大学医学部附属病院

研修先： 土佐市民病院

地域医療研修として高知県土佐市の土佐市民病院で2022年8月の1か月間研修させていただきましたのでここにご報告させていただきます。今回の研修で学んだことを報告書としてまとめさせていただきます。

私は福岡県の出身ですが、四国に足を踏み入れることは人生で初の出来事でした。初日、東京・羽田空港から出発し、高知龍馬空港に降り立った時、街並みや出歩いている人々の数など、東京との違いを感じ、驚きを隠せませんでした。空港からバスで土佐市へ移動中、東京と高知の医療はどのように違うのか想像しながら過ごしていました。まず感じたことは、病院の数が圧倒的に少ないことでした。地域の基幹病院がすべてを担っていることは容易に想像ができましたが、実際に医療従事者がどのように働いているのかまでは見当もつかない状態で不安の中、地域医療研修が開始となりました。

研修では、外来診療を中心に経験することができました。往々にして、臨床研修医は入院患者さんの病棟管理に携わることが多く、外来診療を実際に行うことは初めてであったため、今回の研修は私にとって貴重な経験となりました。私の所属病院では、入院患者の病棟管理はすでに大筋の方針が決まっていることが多いため、研修医が主体的に方針を決めることはほとんどありませんでした。土佐市民病院での外来研修では、私がひとりで患者と直接向き合って、患者から症状を聞き、診察し、必要な検査・処方をするまで自分で考えなければなりません。当然、上級医の指導のもとに判断することになりますが、大枠を決めて相談する裁量が与えられました。所属病院によっては研修医に裁量が多く与えられることもあるでしょうが、大学病院に所属している研修医はそうでないことが多いと思います。裁量が与えられることは、自分ひとりで考えなければならぬ環境を与えてもらっている良い機会であり、非常に勉強になる有意義な時間でした。はじめはなかなか要領を得ず、患者さんをお待たせしてしまうことがあり、外来の限られた時間内で多くの患者さんの対応をする難しさを感じました。方針が決まっていない状態から始まる外来診療では、患者さんの症状の原因を特定できず、経過観察とすることが幾度もあると思いますが、そうであっても患者さんが病院で診てもらってよかったと感じていただくためには、患者さんとよく話すことが大事であり、わからないことはわからないと説明することも肝腎であると感じました。要点を整理し、専門用語を極力使わず説明することは、はじめは非常に難しく、頭が真っ白になってしまったときもありましたが、次第に慣れていき、患者さん・患者さん家族が求めている情報をわかりやすく提供することができるようになっていきました。そのようなスキルは医学知識をいくら得ても獲得することができないものであり、経験を積むこ

とが重要です。患者さんが不利益を被ることなく、研修医が向上する経験を積ませていただける環境を土佐市民病院は提供して下さっております。

近年は専門医取得のために3年目以降の若手医師が大都市へ流れ、そのまま大都市で専門医として勤務する流れができつつあるという見方もあります。それにより大都市は医師の充足をし得ますが、地方がしわ寄せを受ける側面は目を背けてはいけない現実です。日本の医療問題の一端をまざまざと見るができる良い機会でした。

1ヵ月間という短い期間でありましたが、土佐市民病院での地域医療研修を通して、普段の東京の研修では経験できない多くのことを学ぶことができました。今回の研修が円滑に進むように支えてくださった高知医療再生機構の皆様、土佐市民病院の先生方や医療スタッフの皆様、そして何より患者様、市民の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。高知県の魅力を存分に味わうことができました。また、いつの日か、お世話になることがあるかと思いますが、その際はよろしくお願い申し上げます。